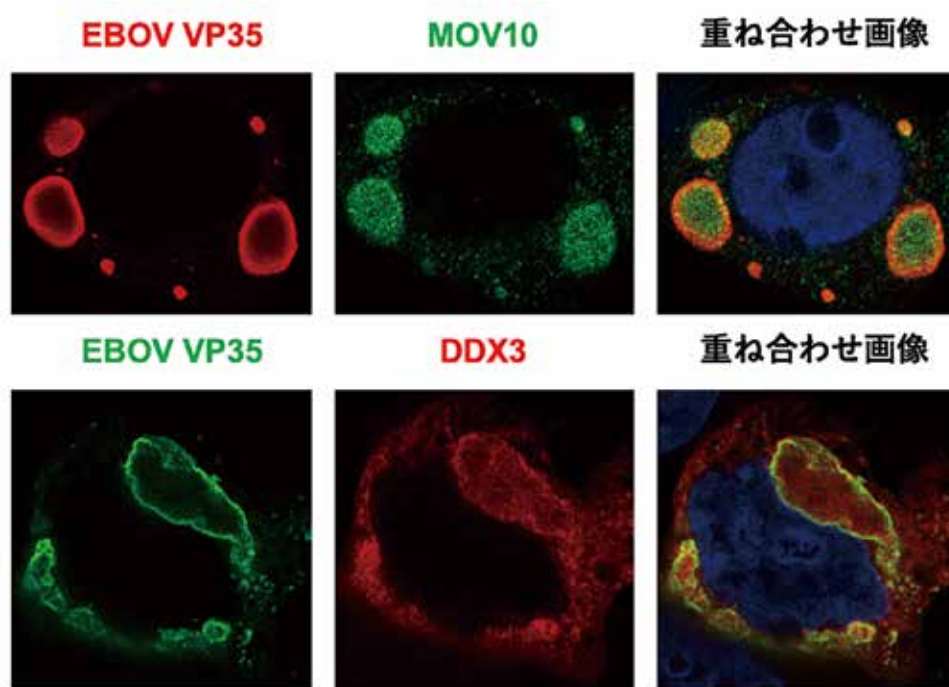


(P1の続き)

(DNAの遺伝情報に基づいて蛋白質を合成する働きを担うRNAの立体構造をほどく酵素)を取り込んで(右下画像)、それらを巨大なエボラウイルスのRNA遺伝子の複製や維持に利用していることが分かりました。ウイルスは大腸菌のように分裂して増えます。ヒトの細胞に感染して、細胞内の種々のヒト蛋白質をハイジャックして、自身のウイルス複製に利用したり、ヒトの免疫システムを破壊することにより、子孫ウイルスを増やすことが出来ます。このような巧妙なウイルスとヒトとの攻防の仕組みを解明し、ウイルス感染症の新たな治療戦略の開発に繋がっていきたいと思っております。



画像:エボラウイルスの作る蛋白質(VP35)の分布とヒトの蛋白質(MOV10、DDX3)の分布を重ね合わせると前者が後者を包み込むように存在していることが分かる

熱帯医学・新興ウイルス感染症サマースクールの開催

令和7年7月27日(日)、長崎大学の熱帯医学研究所と高度感染症研究センターの主催で熱帯医学・新興ウイルス感染症サマースクールを開催しました。高度感染症研究センターは教職員が講演、研究紹介、体験イベントを実施しました。講演では野依修助教が、ウイルスが増殖のためにヒトの細胞の機能を利用する仕組み等について説明しました。聴衆からは、ウイルスが利用していると思われる細胞内の分子はAIDSウイルスでもSFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルスでも同じかとの質問があり、ウイルスによって異なるとの回答がなされました。研究紹介では矢島美彩子助教他が感染症の研究の仕方、BSL-4施設および陽圧防護服についての紹介を行いました。来場者からはセンター研究者の出身専門分野、国内の他のBSL-4施設等について質問がありました。これに対してそれぞれ、獣医学、薬学が多いが医学部出身の者もいる、東京都に1か所あるがもっぱら診断・治療目的で活動している等の回答をしました。体験イベントでは10名の参加者がガウン型防護服、二重手袋、N95マスクの着脱を体験し、リ

エゾン推進室から脱衣時において汚染が拡がらないよう防護服を脱ぐことの重要性を説明しました。また参加者らは、N95マスクをした状態では空中に噴霧された芳香剤の香りが分からないことを実体験しました。



お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学高度感染症研究センター

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

フリーダイヤル 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

ファックス 095-800-4301

ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

